



南郷

札幌市立南郷小学校

学校だより 第3号

令和 7 年 5 月 30 日

【学校電話】 011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



「楽しみだな～」子どもの何を評価するのか

校長 関根 治彦

娘から「今年の運動会の表現『よさこい』だって」と娘の第一声を聞いたときには、正直「また、よさこいか～」と残念に思いました。しかし、そのあとの娘から出た言葉に耳を疑いました。

「楽しみだな～。」

正直、毎年同じ出し物を見せられている立場としては、新しい表現を見たかったと思っていました。娘に「どうして楽しみなの？」と聞くと、「今回のよさこいは、踊りも、隊形も、衣装も、鳴子も自分たちで創るんだって。私たち4年生は衣装を作るの。どんなのにしようかな。そう言えばよさこいの写真集があったよね。」といそいそと本棚をあさる姿がありました。

それから連日、3～6年生で打ち合わせをした話。4年生で相談した話。6年生にダメ出しをもらって泣いた話。4年生で再度練り直して、衣装を作った話。5・6年生が中心となり、踊りを教えてくれた話。そして、衣装ができあがってみんなに褒められた話。子どもたちが『よさこい』を創り上げていく様子がよく分かりました。

運動会当日、子どもたちの満足感に満ちて、踊っている顔を見ていると、それまでに準備してきた姿が思い出され涙が出てしまいました。

家に帰ってきてから娘の『自慢話』が延々と繰り広げられたのですが、それを夫も、義父母も目を細めて聞き入っていました。先生方におかれましては…（この後、お礼の言葉が続きます。）

上記は、保護者の皆さんから子どもたちへの運動会のコメントカードとともに、4年生保護者が学校長宛にくれた手紙を、当時6年生担任で担当者であった私に見せてくれたものでした。

今は統合され『資生館小学校』になっている『創成小学校』での話です。創成小学校は札幌で一番古い、街の真ん中の学校でしたが、全校児童が90名～100名、すべて1学年1学級という小さな学校でした。ちなみに6年生の私のクラスは15名でした。その少人数のよさを生かし、運動会を『自分たちで創造する楽しみを！』をテーマに縦割り異学年活動で構成した運動会でした。その中で、表現は、総合的な学習の時間で『オールプロデュース よさこい創成』で、曲以外は自分たちで創るというものでした。創り上げていく過程は上記のお手紙にあるようなねらいの達成を予感させるものでした。

運動会前日、「先生、よさこい創成が始まる前に児童会で今回の『よさこい創成』の取組を会場の皆さんに発表させてください。」との直談判があり、前日に急遽流れを変更することになりました。当日、児童会の子供たちはこれまでの苦労や各学年の頑張りなどを切々と訴えていました。「…どうぞご覧ください。」と話が終わるとすごい拍手が沸き上がりました。さらに、『よさこい創成』が終わったときには、見ていた会場の皆さんが立ち上がって割れんばかりの拍手をくれたのでした。

「踊りにもう少しメリハリがあった方がいい。」「もう少し踊りがそろそろかつこよかった。」などの声があったのも事実です。確かに表現の出来で見てみると…という部分がかったことは否めません。

ここで大切なのは、その活動を通して「何を育てているか？」「子どもたちの何を評価するか？」にあると思われます。お手紙をくれた保護者の視点は、「観客」としての視点から、「子どもを育てる者」の視点に変化していることがうかがえます。

明日はいよいよ運動会です。子どもたちはこれまで、それぞれが取組の目標を持って頑張ってきました。是非、「運動会でどんなことを頑張ってきたのか？」「運動会の見どころはどこなのか？」をお子さんに聞いていただき、ご参観いただければと思います。子どもたちにとって最大の称賛は自分が頑張ってきたことが認められることです。よろしく願いいたします。